

彼は人々の前に其美服を誇ることが出来るのであらうか。彼が衣服のために費すことが多ければ必ず食物及び其他の點に於て節約を行つて居るに相違はないのであるから、何人も彼の美服を見て驚く者はない筈である。斯の如き社會に於ては何人も自らの富を誇ることは出来なくなるから、奢侈的生活を送らんとするが如き野心は全然消滅することになる。若し私共が一切奢侈品の製造を中止することが出来たならば私共は同時に必需品及び娯樂品の量を増加し、従つて私共の幸福を増進することが出来る。歐洲大戦中に交戦國は軍需品を製造する必要があつた、め殆ど全く奢侈品の製造を中止するやうになつた。これによりて見るも私共が奢侈品の製造を中止することにより私共の勞働力を全く必需品及び娯樂品を生産するために費し得ることを充分に了解することが出来る。若し大戦中軍需品製造のために費したる勞力と戰場に勤務した所の人々の勞働力とを必需品及び娯樂品生産のために費したとしたならば、これによりて私共の幸福は驚くべき程度に迄増進するに相違はない。

奢侈品の製造と共に大なる浪費と見るべきものは不正品の製造である。而してこれが又自由競争の結果であることは言ふ迄もない。今日の生産は私共消費者の要求に應ずるといふよりも寧ろ高き價を以て其生産物を賣らんことを目的として居る。若し生産が家庭だけに於て行はれるならば、其目的は單に家庭にある人々の要求を満足せしむるにのみで、これを賣つて利益を得んとするのではない。故に家庭生産の目的は單に人々の要求に應ずるにあるけれども、

不正品製造

現在の社會に於ける生産は賣らんことを目的として行はれて居る。換言すれば今日の生産は營利主義を目的として行はれて居るのである。既に交換によりて利益を得んとすることが生産の目的であるとすれば、不正品を製造して高き價を貪らんとすることは製造家の多數が陥り易き誘惑であると言はねばならぬ。故に現社會に於て多くの不正品が生産されつゝ、あることは殆ど私共の想像の及ばぬ位である。奢侈品は大なる浪費であるけれども必しも私共の身體に害を及ぼすものではない。然し不正品は浪費であると同時に怖るべき有害物である。米國全體に於て不良食物のために疾病に陥る者が毎年三百萬人に達すると言はれて居る。國際純良食物協會長ネッターの言ふ所に據ればニューヨーク市に入來る食料品の四割が全く人類の食物として不適當なる物である。世界各國は種々なる法律を設けて不正品の製造を防止せんと努力して居る。且つ多くの官吏を役使して不正品を取締つて居るけれども、尙充分に其效を奏することが出来ない。これによりて見れば不正品の製造は現代の經濟組織の特徴であつて、これを改造するにあらざれば容易に不正品の撲滅を謀ることが出来ないといふことを了解する事が出来る。食料品の如きは私共の幸福に密接なる關係を有し、時としては私共の生命にも影響を及ぼすのであるから、今日の如く營利主義の下にこれを生産することは危険の甚しきものである。前に述べたが如く私共は利益を目的としないで生産することの出来るやうな社會を組織することを理想としなければならぬ。斯の如き社會が實現すること、なれば不正品の製造は全く除去すること

賣買制度

が出来る。

現社會に於ける經濟組織から生ずる所の浪費は極めて多いのであるが、賣買制度の如きも其主なる實例の一つと見ることが出来る。賣買制度に關しては第二編に於て既に述べたのであるからこれを詳説する必要はない。現今の賣買制度は總て小規模であるがため比較的多くの仲介者を要することになつて居る。更に現今の賣買が自由競争の下に行れて居るのであるから、これによりて多くの浪費を生ずるようになつたことは實に已むを得ないのである。今其一例を擧ぐれば世界各國に於て最も多く採用されて居る所の廣告である。一九〇九年米國に於て廣告のために費されたる金額は四億圓に達したといふ事である。今や廣告は一種の技術であつて、専門的にこれを研究して居る者が少なくない。且つ廣告意匠家なる専門の職業をも生ずるやうになつた。廣告が自由競争主義の下に行はれて居る賣買制度に取りて必要缺くべからざるものであることは何人もこれを知つて居るけれども、競争のなき社會に於て今日の如き廣告が全く無意義のものであることも容易にこれを了解することが出来る。我國に於てすら鐵道省や煙草專賣局の如きが殆ど全く廣告の必要を感じないのは彼等が全く競争の範圍外に立つて居るからである。卸賣商及び小賣商が商品賣捌のため種々なる方法を用ゐて居ることは殆ど想像も及ばぬ位であるが、此ために無益なる浪費を爲して居ることは私共の記憶して居らねばならぬことである。米國の製造家は其商品を賣捌くために數人乃至數十人の雇人を絶えず各地に旅行せしめ、

斯くして注文を取らしめて居るのである。これ等の注文取りは時として五千弗の年俸を受けて居るのであるが、同時に旅費として毎年少なくとも二三千弗を費して居るに相違ない。而して一九一〇年の統計に據れば斯の如き注文取りの數は十六萬三千六百二十人に達して居るといふことである。若し今日の經濟組織を改造して無競争の下に賣買を行ふことが出来るならば、注文取りは全く不必要となる。即ち莫大なる浪費を節約することになる。兎に角私共は今日の賣買制度を以て最も浪費的であると考へて居る。勿論社會主義の行はれる社會に於ても全然賣買制度を廢止することの出来ぬことは言ふ迄もない。然し賣買制度が今日の如く複雑なるものでなく、極めて簡單なる組織を採るやうになることは明かである。賣買は總て國家と個人との間に行はれることになるから、何人も現在の公設市場の如き處に於て貨物を購買することになる。各公設市場には賣子を使用して小賣商の爲すべき仕事を爲さしむるのであるが、彼等は自らの利益を得るために賣るのでないから、小賣商の如く暴利を貪る必要はない。斯の如き制度の下に於ては生産者と消費者との間に直接の取引が行はれるから、全く仲介人や卸賣商といふが如き仲介者を廢止することが出来る。即ち生産者は其生産物を直接公設市場に運搬し、賣子はこれを受取つて販賣することになる。經濟組織は全く軍隊の如くに組織せられるのであるから、責任の位地に立つて居る所の者は常に統計表の示す所に據り生産者と公設市場との間に於ける分配法を管理するのである。以上述べたるが如き方法により私共は現在の賣買制度から生ずる所の

金融機關

浪費を防止することが出来ると思ふ。

今日の有力なる而も有利なる事業でありながら社會主義の立場から見ても全く浪費的なるものがある。銀行業の如きは其一例であるといふことが出来る。何れの國に於ても銀行は金融機關として最も有力なるものと認められて居る。若し現今の社會から銀行を取去つたならば産業界は全く靜止の状態に陥るに相違はない。銀行といふ金融機關がなければ私共は小切手及び爲替の如き信用機關を利用することが困難となるから、甚しき不便を感じるに至るは明かなることである。今や世界各國に於ける銀行の数は驚くべき程度に達して居る。我國に於ても最近の統計に據れば普通銀行の数は千三百七十五、同支店は二千三百七十四、貯蓄銀行の数は六百六十一、同支店は千六百八十四である。然しこれ等の有力なる機關は現今の如き通貨制度を根柢として居るがため生存の理由があるけれども、若し金銀を通貨とする必要がなくなり、個人の賣買及び貸借を許さないやうな社會が現出したならば、全く無用の長物となるのではなからうか。私有財産制度を是認する社會に於ては勿論銀行の必要を感じるけれども公有財産制度の確立と共に私共は全く銀行の必要を認めぬやうになる。今や銀行のために莫大なる資本は投せられ、其結果資本家の勢力は益強大となつたのであるが、これを社會主義の立場から見れば大なる浪費であると言ふべきである。跛者のためには松葉杖が必要であるけれども、普通の人には其必要がない。これと同じく金銀といふ通貨を必要とする社會には銀行の必要があるけれども通貨

の必要を感じない所の社會には銀行も亦不必要である。斯の如くして社會改造の結果私共が全然銀行を廢止することが出来るやうになつたならば、私共は銀行のために投せられたる資本を他の有益なる事業のために利用することが出来、従つて人類の幸福はこれがため著しく増進されるやうになる。

保險業

各種の保險業は金融機關と同じく現在の經濟組織に於て重要な位地を占めて居る。單に莫大なる資本金が此事業の爲に投せられて居るといふばかりでなく、社會政策の立場から見ても保險事業は私共の經濟生活に重大なる關係を有して居る。保險事業の目的及び方法は何れも人道主義に合致して居るのであるから、私共は如何なる場合に於ても保險事業の設立に對して賛意を表せざるを得ない。保險事業は協同一致の精神を代表して居るのみでなく、幸福なる人が不幸なる人に援助を與へるといふのであるから私共はこれを人道主義の發露と言ひたいのである。而して其援助は相互的であるから決して慈善的でない。私は國家保險及び労働組合に於て行れつゝ、ある所の相互保險に關して比較的充分なる説明を試み、且つ保險の利益を説いたのであるが、私は現在の社會に於て保險事業が實に有益なる働を爲しつゝ、あることを信するものである。然し今日の保險事業が決して理想的でないことも認めなければならぬ。第一に現在の保險事業は小規模であること、第二に無益なる經營費を要することを見れば、私共は今日よりも遙に經濟的なる方法により保險の目的を達することが出来ると思ふ。社會主義の如く各人の

生活を保障することが出来るならば、これは確に根本から保險問題を解決したものと云ふべきである。生活の保障が完全に行はるれば今日の如き保險事業の必要は一切消滅することになる。若し國家が病人を公立病院に收容し、然も何等の報酬さへ要求しないことになれば何處に疾病保險の必要があるか。男女老幼の區別なく平等に生活費として分配を受けることが出来るならば何處に生命保險の必要があるか。若し國家が人民のために住宅を供給することになれば火災保險の必要はなくなるのである。社會主義の理想は私共の社會をして一大保險團體とならしむるにある。現在の如き保險事業は自由競争制度の下に存在して居るのであるから、多くの費用を投じて被保人を募集しなければならぬ。且つ又被保人が災害に出會ひたる場合には種々なる手續を経て保險金を拂はなければならぬ。要するに現在の保險制度には多くの浪費が伴うて居る。これに反して社會主義の行はれる社會に於てはあらゆる保險が存在して居るに拘らず、保險に對して何等の手續を要しない。國民は生れながらにして保險に加入して居るのであるから、現在の如くに被保人を募集する必要はない。従つて募集費といふが如きものを支出することはなくなるのである。同時に被保人に對し一々保險金を支拂ふといふ必要もない。何となれば各人が受くる所の分配はあらゆる災害に對する保險金をも含んで居るからである。斯の如く論じ來れば今日の保險事業は社會主義の立場から見ても大なる浪費であるといふことを了解することが出来る。此點に於ても現在の經濟組織に大なる浪費の伴うて居ることは疑ふことの出来ぬ事實である。

物價の變

實である。

現在の經濟組織に伴ふ大なる缺陷の一つは物價の變動といふことである。物價の變動は時として人力を以て如何ともすることが出来ないことがあるけれども、多くの場合に於ては私共の不注意から生ずるものである。礦物の如き自然物は其供給の少なくなるに従ひ其價は漸次騰貴することとなる。或は生産費の増加により已むなく其價の騰貴することがある。或は農産物の如く凶作のために著しく其價を増加する場合がある。然しこれ等の場合を除く外物價は多く人爲的に騰貴するものであることを記憶しなければならぬ。生産過多のために物價の下落するのは全く現在に於ける經濟組織の結果であつて私共はこれを不可抗力と見ることは出来ない。殊に投機商が買占を行ふため甚だしく物價を釣上げるが如きは全く人爲的であると云はねばならぬ。物價の變動が私共の生活に如何なる影響を及ぼすかを考ふれば、私共は決してこれを輕視することは出来ないのである。大體から言へば物價が少しづつ、騰貴することは産業界に最も良好なる刺戟を與へることになるかも知れぬ。然し人々は斯の如き場合に於て往々自制の力を失ふものである。徐々に物價の騰貴することは恰も酒に酔ふが如きものであるから、人々は知らず識らず其度を越えて其量を過し終に二日酔といふ惡結果を來すやうになる。經濟界の好景氣に次で怖るべき不景氣の來るのは全く物價の騰貴を制限することの出来ないことによつて生ずる所のものである。而して一度經濟界に變動が來れば、一時大なる成功をなした所の實業家も

忽ちにして其資産を蕩盡すること、なる。彼等が斯の如き運命に陥るのは自業自得であると諦めることも出来るけれども、何等の利益をも得ない所の俸給及び賃銀生活者が物價騰貴のために大なる苦痛を感じることは實に氣の毒の至りである。彼等は物價騰貴のために何等の理由なくして其俸給を減ぜられるといふこと、殆ど同一の結果を生ずることになる。彼等には毫も投機を行ふやうな考へはないけれども。彼等は已むなく自らも亦投機的生活をなさねばならぬこととなる。要するに彼等は生活の不安を痛切に感ずるのであるから、或者の如きは如何なる手段によりても相當の資産を得これによりて生活の安全を謀らんとするが如き考へを起すやうになる。殊に政黨に關係ある人々が政權を利用して何等かの利益を得んと焦慮しつゝ、あることは確に現代の思想を代表して居るものと見るべきである。

戦争は自由競争主義に伴ふ浪費の最も大なるものである。今回の歐洲戦争により交戦國が數千億圓の戦費を支出したことは著しき事實であるが、私共は果して斯の如き戦争が再び繰返されないといふことを保障する譯にはゆかぬ。今や世界の各國は軍備を制限するどころでなく、却つてこれを擴張せんとする傾向を示して居る。戦争は實に文化生活の破壊である。戦争は直接に文明の破壊者であると共に間接にも私共の文化生活に大なる妨害を與へて居る。假に世界の各國が全く軍備を廢止することが出来るとしたならば、各國は其軍費を以て種々なる文化的設備を爲すことが出来るに相違ない。即ち各國の青年男女に悉く高等教育を授くることも出来

戦争

る。而して戦争の如きは決して避くべからざるものではなく、私共の社會組織を改造さへすればこれを廢止することは決して困難でない。戦争の原因は國民的偏見或は狹隘なる愛國心にあると論ずる人もあるけれども、これは決して主なる原因ではない。現代の戦争が主として經濟的競争から生ずるものであることは多くの事實がこれを證明して居る。世界の強國は何れも製造業に努力して居るのであるから、其生産物を販賣するには海外に於ても市場を見出すことが必要となつて來た。故に強國が時々領土擴張を謀ることも其眞意は市場を得るといふことにある。人々が軍艦旗の後に商業が従ふといふのは市場を得るために海軍の設備が必要であることと言ひ表したものに過ぎない。私共は屢々軍國主義といふことを聞くのであるけれども、今日に於て領土擴張のみを目的とする所の軍國主義が存在し得るとは考へられない。現在の軍國主義は一種の經濟的膨脹主義に外ならぬことを信ずるのである。言ふ迄もなく戦争には莫大なる戦費を要するのであるから、戦争をなすには先づ有産階級の賛成を得ることが必要である。若し有産階級の同意を得ることが出来なければ戦費を得る途はないのである。而して多くの場合有産階級が戦争に賛成し無産階級がこれに反對するのを見れば戦争が資本家制度の特徴であると論ずる人のあるのは必しも怪しむべきことでない。

第四節 文化生活

或人々は現代の文明を謳歌して殆どこれに満足して居るが如き意見を洩して居るけれども、現代文明には何れの方面に於て誇るべきものがあるものであらうか。多くの人は現代文明の物質的方面に於て誇るべきものがあると考へて居るかも知れぬが、私共は其の方面に於てすら現代文明が甚だ幼稚であることを感ぜざるを得ない。近代に於ける科學の發達には大に見るべきものがあるけれども、私共の社會は充分にこれを應用することさへ出来ぬではないか。私共の物質的文明は單に社會の一部にのみ制限せられ、多數の無産階級は殆ど其恩恵に與つて居ないといふ有様である。都會生活は最も著しく近代の文明生活を代表して居ると言はれて居るけれども、其の都會の中にも貧民生活が大部分を占めて居る。世界各國は都會の改善に努力して居るのであるから、私共は其處に大なる物質的進歩を見ることが出来るけれども、一度農村生活の有様を見る時には餘りに其對照の甚しきに驚かざるを得ない。國家といふ體面から見れば都市の美觀は偶私共の生活が極めて偽善的なることを證明するに過ぎない。今これを私共の家庭に就て考へて見よう。若し私共が客室及び書齋等にのみ善美を盡し、臺所、浴室便處等を不潔なる状態に放任して置くならば人々はこれを評して何といふであらうか。斯の如き生活は全く虚飾的であつて私共はこれを偽善の甚しきものであると評するの外はない。今や世界の各國が僅に都會に於てのみ物質的文明を衒ひ、然も其中に多くの貧民窟を包容して居るが如きは現代文明の一大恥辱であると言はねばならぬ。殊に農村生活の改善に對して殆ど着手することさへ出来

ないのは全く意氣地がなさ過ぎるではないか。然し精神的方面に比すれば現代文明の物質的方面には尙幾分が見るべき所のものがある。私共は現代人の文化的生活といふことを考へる毎に今日の經濟組織が如何に大なる障害となつて居るかを感ぜずには居られない。概して言へば宗教道德は勿論、藝術さへも未だ人類を文化生活に導くことが出来ないのである。個人としては其の感化を受けて居るものもあるけれども、社會としては未だ徹底的に其力を感じて居ないやうである。私共はこれがため宗教、道德及び藝術を以て無力であると考へるのではない。唯現在の經濟組織が宗教、道德を行ふにも、藝術を鑑賞するにも極めて不利益に出来て居ることを感ずるのである。この點から見ても現在の社會が文化生活をなすに不適當であることは充分に了解することが出来る。

現在社會に於て道德家たることは極めて困難なることであると信ぜられて居る。道德家と言へば私共は直ちに修養といふことを聯想するのであつて、修養とは大なる困難や誘惑に打勝つことを意味するのである。私共が一の遊技を習ふにも多くの練習を要するが如く、道德も亦少なからぬ修養を要するものと考へられて居る。然し元來道德とは斯の如き多くの修養を要するものであるか、私はこれに對して多くの疑を有して居る。道德とは人類の履むべき道を示すのであるから、道德を稱して單に道というても差支はない。若し道德が道であるとするならば、これに多くの困難や誘惑の伴ふべき筈がない。常識から考へても道は容易なるべきもので困難

なるべきものではない。若し東京市に於けるが如き惡道路を以て道の本質であると考へる人があるならば、これは大なる誤であらねばならぬ。東京市の道路の如く晴天の日には砂塵を飛ばし、雨天の日には泥濘となるやうでは何人も歩行するに困難を感じざるを得ない。斯る惡道路を足駄にて歩行するには少なからぬ練習を要する。若し外國人をして足駄を用ゐしめたならば彼等の多くは歩行中に躓き或は倒れるに相違はない。故に惡道路を歩行するには少なからぬ練習を要するけれども、完全なる道路には何等の練習を要しない。これと同じく現在の社會に於て道德實行のために多くの修養を要するのは私共人類が不完全なる社會に生活して居るがためである。幾度も繰返して述べたるが如く現在の社會は自由競争を原則として組織せられて居る。而して自由競争主義と道德の教ふる利他主義と兩立することの困難なることは何人も容易にこれを了解することが出来る。自由競争の立場から言へば何人も先づ自己の利益を謀るといふことが當然である。勿論自己の利益を謀ると同時に他人の利益をも考へるといふことはあるけれども、多數の人々は容易に利己といふ誘惑に打勝つことが出来ない。自由競争主義は自然に人類を感化して利己主義に傾くやうにならしめた。而して私共の道德は斯の如き傾向に反抗することを教ふるのであるから、道德は努力とか修養とかを要するやうになつた。若し社會の組織が一變して自他の利益が一致するやうになれば、私共は自然に道德を行ひ得るやうになる。換言すれば私共は坦々たる大道を歩行するが如く容易に道德を實行することが出来る様になる。

階級的道德

斯の如く道德の實行を容易ならしむることが社會主義の主張の一つである。

道德の實行を困難ならしむるに今一つの理由がある。現在の社會に於ては優者の道德と劣者の道德とが存在して居る。若し何等階級の區別がなかつたならば道德の實行は比較的容易に行はるべき筈であるが、現在の社會に階級が設けられて居るため道德の實行は比較的困難である。同等の者に相對する時には道德が比較的容易に行はれるけれども、優者が劣者に對し若くは劣者が優者に對するやうになれば忽ち其行に困難が生じて來るのである。優者には多少高慢の心があるから劣者を同等の者として取扱ふことは出来ない。彼等は多く我儘であるから、劣者の行爲に對して不快を感じる時には忽ち憤怒を洩し或は亂暴なる舉動をなすこともある。勿論優者の中にも時としては注意深き人がある。彼等は常に劣者に對して親切なる態度を取る。然し斯の如き場合に於ても彼等の道德は慈悲とか同情とかいふ形式を以て現はれるのであるから、決してこれを理想的と稱することは出来ない。換言すれば優者は決して劣者の人格を尊重するといふ考へから彼等を取扱ふことが出来ないのである。然し劣者が優者に對する場合に於ても殆ど同一の困難を感じる。如何なる人も眞價を有する優者に服従し且つこれを尊敬することは容易であるけれども、單に財産若くは位地のために優者となれる者に對して服従することは困難である。現今の社會に於て優者となれる者は必しも手腕家若くは人格者でない。或者は單に父祖の財産若くは位地によりて優者となつて居るのであるから、彼に對して尊敬を拂ふといふ

ことは不可能である。然し現社會に於ては立派なる人格者若くは手腕家も往々斯の如き人の雇人となつて働く必要があるから、彼等は斯の如き有名無實の優者に對して少なからぬ不平を感じざるを得ない。これがため彼等も知らず識らず道德律に違反するが如き態度を取るやうになる。これによりて見れば、人類をして悉く平等の位地に立たしむるといふことは道德の實行をして容易ならしむる最善の方法である。

現在の如く男女道德が亂れるやうになつたのは人々が結婚を延期するやうになつたからである。而して何故に結婚が延期せられるかを考へる時に私共は經濟上の理由が其主なる原因となつて居ることを見るのである。現今の如き自由競争の盛なる社會に於ては妻子を養育するといふことが頗る困難なること、なつて来る。教育を受けることの多きに從ひ人々は生活の標準を高めんとする希望を抱くことになるから、其結果として出來得るだけ結婚を延期することになる。然し品行を慎むといふことは總ての人に要求することが出來ないのであるから、多數の青年男女が不正なる關係を結ぶやうになることは自然の勢である。若し私共の社會から貧乏といふことを除去することが出來るならば、殆ど不正なる男女關係はこれを矯正する事が出來る。何となれば總ての青年男女は青春の時代に於て早く結婚することが出來るからである。然し或人は既婚者にも不品行者の少なくないことを引證して、貧乏病の撲滅が必しも青年男女の不品行を除去するものでないといふことを論ずるかも知れぬ。勿論結婚したる人の中にも一種病的

の人のあることを認めねばならぬ。彼等は一夫一婦を以て満足することが出來ないから、依然として不正なる男女關係を結ぶであらうと思ふ。然しこれ等の男女は所謂色情狂と稱する人々であつて、私共はこれを例外と見なければならぬ。現在の社會に於て一夫多妻主義を實行して居る所のものは必しも色情狂ではない。私は寧ろこれ等の不正なる關係が男子の我儘から生じたものであることを信ずる。永き間男子は殆ど女子を劣者であるが如くに取扱つて來た。女子は又經濟上の困難から自分の節操をも賣らねばならぬ程の窮境に陥ることもあつた。男子の我儘は斯の如き女子の弱點に乗じて自らの慾情を満足せしめんとしたのである。斯の如く考へ來れば男子の不品行を禁止することは決して不可能なことではないことが判る。若し女子が完全なる經濟上の獨立を得るやうになり、且つ彼の生活が充分に保障されるやうになつたならば、彼等は何の必要あつて節操を賣るが如きことに甘んずるであらうか。要するに貧富の懸隔は往々男子をして其節操を賣らしむることがある。堂々なる學者にして其位地を維持するために彼の主張を二三にするが如き實例も少なくない。男子にしても尙斯の如しであるとすれば經濟上の獨立を得て居ない女子に此事あるのは少しも不思議なることではない。故に人々の收入を同一ならしめ、貧富の懸隔を全然廢止するといふことは徹底的に男女の不正なる關係を一掃する所の唯一の方法である。斯の如き場合に於ては各人の收入も決して多額ではないのであるから、よし女子にして節操を賣る者があるとしても、男子は斯の如きことのために多くの金錢を費す

程の餘裕さへもないことになる。これによりて見れば男女道德の紊亂は全く現今の社會組織に附隨する所の罪惡であると言はねばならぬ。

希臘人は物質的生産を奴隸階級に一任して自らは藝術のために其全身全力を傾注したのであるから、彼等は後世模範たるべき立派なる文明を造り出すことが出来た。是によりて見るも眞の藝術は生活の懸念を超越しなければ決して成就すべきものでないことを了解することが出来る。希臘人は物質的生産に關して心を勞する必要がなかつたのであるから、よく目的を達する事が出来た。然し現社會に於ける自由競争は餘りに激烈であるから、今日の富者は藝術のために盡すといふ餘裕さへも有して居ない。希臘の富者は富よりも藝術を愛し、富は單に藝術の一手段たるに過ぎないと信じて居たのであるが、今日の富者は全く一變するやうになつた。彼等が富を積むことにのみ苦心して居るのは彼等が富の力により何事をも爲し得ると考へて居るからである。而して彼等の考へて居ることは種々なる事實によつて證明せられて居る。即ち彼等は金力によりて政權を得ることも出来、又爵位を得ることも出来る。更に進んで藝術すらも金力によりて如何ともすることが出来ると考へるやうになつた。富者は自ら藝術家たる事が出来なくても藝術の發達に貢献することが出来る。殊に莫大なる金を投じて藝術品を買入れることは彼等の容易に爲し得る所である。古來富豪にして藝術家のバトロンとなつたものは少くないのであるが、私共は我國の封建時代に於て多くの大名が藝術のために多大の援助を與へたと

いふ事實を見るのである。言ふ迄もなく藝術は生活の懸念に超越して初めて其眞價を發揮すべきものであるから、大名の保護を受けたる藝術が今日の其れに比して大に優れる所あるのは決して怪しむに足らない。藝術家が生活費を得るために創作するやうになれば、其藝術は決して優秀なるものではない。若し生活費に追はれて其作品を公にする人があつたならば、これは決して後世に傳へられるが如き傑作ではないのである。極端に言へば藝術は一種の道樂であつて職業とすべきものでない。若し二三時間の勞働を以て生活費を得ることが出来るやうな時代が來つたならば、何人も其餘暇を以て藝術に捧げることが出来、斯くして其眞價を發揮するやうになる。今日の社會に於て多數の人々は職業によりて報酬を得ること、なつて居るのであるが、これは決して望まじきことでない。何となれば私共の事業は悉く職業化され、従つて事業其物に特有なる所の美點を失ふからである。現今の社會に於ては藝術家すらも職業化されんとする傾向がある。將來に於て藝術を職業から引離すことは最も望まじきことではないかと思ふ。更に社會の富が人々の間に平分される様になれば、多數の人々も多少に拘らず藝術に對して趣味を感じるやうになる。今日の如き社會に於ては多數の貧乏人が藝術家となることの出来ないのは勿論、藝術を玩味する修養すらも得ることが出来ないのである。これがため今や藝術は少數者の専有する所となつて居る。若し貧富の懸隔を打破する事が出来るならば國民は悉く藝術を了解するやうになる。これが即ち藝術の民衆化である。私共は一日も早く斯る理想を實現する

有産階級
と宗教

日の近づかんことを切望する。

一祝同仁は宗教の本旨である。基督教の如きは富者に對すると同じく貧者に對しても同情を有して居るのであるが、大體から言へば最も多く貧者に味方して居ると言うても差支はない。これは宗教の性質としてさもあるべきことであると信ずる。然るに現在の有様を見れば其基督教は殆ど全く有産階級に占領されて居るといふ有様である。殊に宗教を其國教として居る場合に於て其の傾向が最も著しく現はれて居るやうに思はれる。英國に於ては基督教に對する労働階級の態度が冷淡である。獨逸に於ては寧ろ反抗的である。前獨逸皇帝は常に社會黨に對して敵意を有して居たのであるが、基督教會は種々なる場合に於て常に皇帝の歡心を迎へることに努力して居た。總選舉の行はれる前の日曜日には各教會の教壇から牧師は必ず選舉權の重すべきことを説き、暗に社會黨の候補者に投票すべからざることを勸告することが常例となつて居たのであるから、社會黨は教會に對し激烈なる反感を有して居た。勿論宗教其ものは労働者に對して少なからぬ同情を有して居るのであるから、労働階級も亦宗教の教理に對し何等反對する所はないけれども、概して言へば彼等は教會といふ宗教團體を好まないものである。基督教は富者に對すると同じく貧者に對しても公平なる態度を示して居るけれども、今日の教會は全く金權に服従して居るのであるから、到底政府の爲す所に反抗する程の元氣はない。宗教は常に正義の上に立つべき筈であるから、貧富の懸隔といふが如きことに超越して居らねばならぬ。

宗教と現
社會の矛盾

嘗にこれのみならず宗教は國家の上に立ちて其行くべき道を指導しなればならぬ。然るに今や其の天職を忘れて有産階級の利益を擁護しつゝある。私共は宗教其物のために悲まざるを得ない。

私は道德の説く所と現社會の組織との間に相容れぬもの、ある事は既に述べたのであるが、宗教の精神と現在の經濟組織との間に一層大なる矛盾のあることを感ぜざるを得ない。基督教の主なる教訓中から一二の實例を引證すれば、私共は直ちに現社會が到底斯の如き教訓を實現することの出来ないといふことを了解するであらう。トルストイの如きは熱心なる基督教信徒である。彼は基督の教訓を文字通りに解釋し、自らこれを實行することに努力したのであるが、彼の説く所が決して現社會の容れる所とならなかつたのは人々の知つて居る通りである。トルストイの無抵抗主義即ち非戰論は廣く社會に知られて居る所の意見であるが、彼は基督の教訓を次の如く解釋して居るのである。基督は私共に如何なる場合に於ても決して怒つてはならぬといふことを教へて居る。又如何なる場合に於ても如何なる人に對しても抵抗してはならぬと説いて居る。トルストイの無抵抗主義は全くこれ等の教訓を基礎として居るものである。基督教の一派にクエーカー宗と言ふのがあつて、同じく絶對的無抵抗主義を主張して居る。彼等は如何なる場合に於ても裁判所に訴へることをしない。彼等は又牢獄に投ぜられても戰爭に従事することを拒絶する。此點に於てトルストイはクエーカー宗と意見を同じうして居るのである。

然し現今の社會に於て徹底的に無抵抗主義を實行することは容易のことでない。何となれば現在の社會は寧ろ抵抗と戦争を以て中心主義として居るからである。更に進んで基督教の思想を解剖すれば私共は明に財産に對する基督の態度を推測することが出来る。基督は嘗て彼の弟子たらんことを志願した富者に對して「先づ汝の財産を賣つて然る後從へ」と答へた。其他新約書にある何れの教訓を見ても、基督教と今日の私有財産制度とは決して兩立することの出来るものでないことが判る。勿論基督の心に私有財産制度といふが如き觀念が存在して居たか否かは疑問である。然し基督教を信する者が少なくとも財産といふが如き思想に超越せねばならぬことは明かである。基督は明白に「汝等は神と財に兼ね仕ふる能はず」と教へて居るのであるが、基督教の信仰と財産の思想とが兩立し得べきものでないことはこれによりても明である。思ふに私有財産の放棄といふことは無抵抗主義以上に現代の社會と相反して居る。然しこれ等の教訓が誤つて居るのであるか、或は現社會の組織が悪いのであるか、私共は公平に此點を考へなければならぬ。私有財産制度の放棄や無抵抗主義は現社會に於てこそ突飛なる思想の如く思はれるけれども、社會主義の實現せられたる社會に於ては少しも不思議なることではない。換言すれば基督教の主張は社會改造の後に於て初めて其實現を見ることが出来る。現社會に於て基督教が未だ充分に人心を支配することの出来ないのは基督教の無力なることを示すのではなく、現在に於ける私共の社會組織に大なる缺陷のあることを證明するに過ぎないのである。

第三章 社會主義の主張

第一節 公有財産制度

財産制度
の改造

社會主義の眼目は財産制度の改造といふことにある。私有財産制度は幼稚なる社會に於ては種々なる利益を與へたに相違ない。何人も自ら生産した所のものを自分の所有物となすことが出来れば、それが動機となつて人々を勉勵せしむることになる。故に私有財産制度が人々の生産力を増進することに於て大なる貢獻を爲したことは私共も充分にこれを認めねばならぬ。然し現在の如き比較的進歩したる社會に於て私有財産制度を許すことは種々なる點に於て弊害を生ずるのである。現在の經濟組織は益大規模とならんとする傾向がある。何となれば大規模の經濟組織は著しく私共の生産力を増加するからである。斯の如き時代に於て私有財産制度を許すことは大なる富豪の出現を奨勵することになる。而して富豪の出現は貧富の懸隔を意味することになるから、其結果は種々面倒なる社會問題を引起すのである。故に現在に於ける私財財産制度は嘗に多數の貧乏者を出すのみならず、あらゆる方面に於て害惡を伴ふものである。故に社會主義の唱へる公有財産制度には大に耳を傾くべき理由があるやうに思はれる。一部の人は私有財産制度が公有財産制度に移ることを以て驚くべき變動であると考へるかも知れ

ないが、公有財産制度は今日に於ても決して珍しきことではない。私共の社會に於て公有財産の實例はあらゆる方面に於てこれを見ることが出来る。土地の如きは大部分私有財産となつて居るけれども今日尙公共團體に屬して居る所の土地が少なくない。東京市を初め我國の都市は多少に拘らず若干の土地を所有して居る。殊に中央政府が所有して居る所の土地は莫大なるものである。今や歐米の都市に於ては益市有地を増加せんとする傾向がある。公園及び道路の如きは著しき實例であつて、市は常にこれ等のために私有地を買収する必要がある。更に社會公衆の利益を目的として公共團體が事業を經營するといふ場合が少なくない。例せば水道、鐵道、電車、郵便、電信、電話等の事業が多く都市及び國家の手によりて經營せられて居るのは人々の知れる所である。其他政府が電燈、瓦斯、煙草、鹽、樟腦及び阿片等の事業を自ら經營して居ることは決して珍しきことではない。社會主義の主張はこれ等の事業以外に其勢力範圍を擴張せんとするにある。若し今後に於て總ての土地を公有となすことが出来、更に進んであらゆる生産事業、商店、船舶、水力電氣事業等を悉く買収することが出来るならば社會主義の目的は初めて達せられるのである。要するに社會主義の主張する所は今日の如く個人が賣買の目的を以て生産することを禁ずるにある。此目的を達するには國家自ら生産の任に當るより外はない。以上述べたるが如くあらゆる生産事業を國家の手にて經營するといふことは社會主義の第一義である。無政府共產主義やサンディカリズムは國家といふことを否認する點に於て社會主

私有財産
の範圍

義と其説を異にして居るけれども、私有財産制度の廢止といふことに於ては何れも其意見を同うして居る。故に社會改造といふ立場から見ればこれ等の學説も將又組合社會主義の如きも其根柢に一致點の存在して居ることを考へなければならぬ。

社會主義は或點迄私有財産制度の存在を是認して居る。若しあらゆる私有財産を否定することであれば、これは社會主義といふよりも寧ろ共產主義といふのが適當である。故に社會主義と共產主義との相違は此點に於て定まるのである。社會主義は私共の着用する被服は勿論其他一切の家具例せば書籍、繪畫、樂器及び食器の如きは當然私有財産たるべきことを主張する。尙其他に私共が毎年受くる所の分配は即ち私共の財産となるのである。此點に於ても社會主義と共產主義との間に學説の異なることを認めることが出来る。社會主義は生産物の分配を主張するに反し共產主義はあらゆる生産物を共有物として取扱ふべきことを説くのである。其結果社會主義の行はれる社會に於ては賣買制度が存在するけれども、共產主義の社會には全然斯の如きことがない。私は前に個人が賣買の目的を以て生産することを許さないといふことを述べたのであるが、若し其生産が單に家庭に於ける消費のために行はれるのであるならば、社會主義は決して之を禁止しないのである。人々が宅地の一部に於て野菜或は果實を生産して自ら消費することは何等社會主義の原則に違反することではない。賣買を目的として生産することは即ち利益を得ることになるのだから、これは明に社會主義の精神に違反するものであると言は

ねばならぬ。以上述べたる所は社會主義の下に於ても尙私有財産の存在し得べき範圍を示したのであるが、私共が茲に明言することの出来ないのは住宅問題である。私共の住宅が私有財産であるべきか或は公財有産であるべきかは一の疑問であつて、容易に決すべきことでない。勿論家屋を公有とするには相當の理由がある。若し國家が總ての住宅を建築しこれを人々に貸渡すといふことになれば、國家は確に火災保險といふが如き無益なる手数を省くことが出来る。何となれば國家は全國に於ける住宅を自ら管理して居るが故に別段保險制度を設ける必要がないからである。第二の利益は國家が必要に応じて住宅の改築を爲すことが出来るといふことである。殊に都市の美觀を増すために市區改正を行ふが如き場合に於て國家は自由に住宅の移轉若くは破壊を實行することが出来る。然し住宅を私有財産とすることにも大なる利益のあることを記憶せねばならぬ。住宅は居住人の便宜及び趣味に従つて建築することが得策であるからこれを彼等の選擇に任ずることは彼等の幸福を増進するに最も善き方法であるかも知れぬ。要するに財産なるものは社會主義の行はれる社會に於ては一切利子を生ずることが出来ないのであるから、何人も必要以上に財産を所有することを好まないやうになるであらうと思ふ。住宅の如きも今日の如く人々に誇る所の手段とはなり得ないのであるから、これがため多額の費用を投ずる人もなくなるに相違はない。斯く考へ來れば社會主義の下に於て住宅も亦公有財産の部となることは自然の勢ではないかと思はれる。

買収の没
収

個人の財産を没収することは革命時代に於て屢見る所の事實である。佛國革命の時に於て貴族及び僧侶の財産は殆ど全く没収せられたと言つてもよいのである。近代に於ては露國の革命が私共に新なる没収の實例を示して居る。然し没収は非常の時に於て行はるべきもので、斯る手段を平時に用ゐんとすることは大なる誤である。私が前に述べたるが如く社會主義は私有財産制度の廢止を主張するのであるが、私有財産を變じて公有となすには買収によるか若くは沒収によるか二途の中其一を擇ぶ外はない。而して私共が合法的に實行し得る所のものを買収であるから私はこれに對して先づ其意見を述べて見たいと思ふ。國內に於ける總ての土地及び資本を買収するには幾百億乃至幾千億の賠償金を要するのであるが、現金を以てこれを買収することの出来ないのは多言する迄もない。然らば如何にしてこれを買収するかといふに、一時公債證書を以てするより外はないのである。勿論政府はこれに對して毎年莫大なる利子を拂ふことになるけれども、政府は其買収したる土地及び事業から多くの利益を得ることが出来るが故に毎年公債證書に對して利子を拂ふことは何等の困難がないのである。然し公債證書の所有者及び其子孫をして永久に座食せしむることは社會主義の精神に反するのであるから、社會主義者は一定の年限後に於て公債證書を無効ならしめんと論するのである。これによりて見れば論者は一時買収を行ふけれども結局これを没収することに賛成するのである。假に彼の言ふ所を實行するとしたならば、何によりて公債證書の有効期限を定めるであらうか。公債證書の所有

者が死ぬる時を以て期限とするのも一方法である。然しこれは種々なる不公平の伴ふことを記憶せねばならぬ。買収數年ならずして死亡する所のものは他の人に比して早く權利を失ふことになる。これも確に不公平と言ふことが出来る。若し公債證書の有効期限が所有者の一代限りと言ふことが公にせられるやうになつたならば、資本家の中或者は買収の行はれぬ前に自分の財産を相続人の名義に書換へるといふ不都合を生ずることになるかも知れぬ。これ等の不公平を除去するには寧ろ十五年乃至二十年といふが如き一定の期間を公債證書の有効期限とするところが最も適當ではないかと思ふ。兎に角買収は過渡時代に行はれる方法であるから種々なる缺點の伴ふのは實に已むを得ないことである。尙多額の公債證書に對して殊に利子累減法を設けるといふことも過渡時代の方法としては適當なることのやうに思はれる。斯の如く有産階級に對して沒收を實行することは餘りに残酷なる處置であるかの如く思はれるけれども、社會主義者の理想とする社會はあらゆる人々に對し生活の保障を爲すが故に、よし莫大なる財産を沒收せられても彼等は今迄よりも以上に幸福なる生活を送ることが出来るといふ保障を與へられるのである。これが沒收論者の意見である。

社會主義者の立場から言へば沒收は必しも不公平なるものではないと彼等は論ずる。勿論沒收其ものは決して好ましきものではないけれども、現社會に於て行はれて居る所の沒收に比すれば社會主義者の唱へる沒收は左程に不公平なるものでなく、同時に怖るべきものでもない。

沒收の原

何人も現社會に於て經濟上の變動が起る毎に多くの沒收が行はれて居るを見るのである。精巧なる機械の發明が雇勞働者の職業を奪うて彼等を失業に陥れることは何人も知れる所の事實である。故に産業革命時代に於て勞働者が往々工場を襲うて機械を破壊したのには大に同情すべき點がある。或は鐵道及び電車のために俸夫が其職業を失ふが如きもこれを一種の沒收と見ることが出来る。經濟的變動のために職業を奪はれること、社會革命のために財産を沒收されることの間には何等甚しき相違はないけれども、世人は勞働者の失業に對して殆ど無頓着の態度を取つて居る。社會的公平といふ立場から見れば政府は當然上記の如き勞働者に對して相當の賠償法を講じなければならぬ。或論者は一時職を失ひたる勞働者は早晚何等かの仕事を見出す事が出来るけれども、財産を沒收された者はこれを回復することが出来ないから、沒收は失業に比してより多く同情すべき點があると論ずるのである。然し失業したる勞働者が再び職を得る迄には多少の時日を要すると共に其間常に大なる不安を感じるけれども、社會主義の下に財産を失ひたる者は直ちに生活の保障を得るが故に決して勞働者の如き悲惨なる状態に陥る虞はない。私共は更に進んで現社會に如何に多くの沒收が行はれて居るかを述べて見たい。今日の産業界は或意味に於て戰國時代の如きものである。大資本家は常に小資本家を壓迫するのであるから、小資本家の生活は決して安全なるものでない。我國の小實業家にして支那及び朝鮮方面に活動して居る者が少なくないのであるが、彼等は多少の成功を來したる場合に於ても尙安

心することが出来ないのである。彼等が幾多の年月を費して築き上げたる事業も一朝大資本家の競争に遇へば忽ち劣敗者となるより外はない。彼等は自ら開拓者となりて新しき事業を経営し、幸にしてこれに成功したのであるが、三井三菱といふが如き資本家は其事業の有利なるを見て自ら競争事業を起し、終に大資本の力を以て開拓者たる小資本家を驅逐するやうになることは私共が屢聞く所の事實である。小資本家は斯の如くして常に没收の憂目に遇うて居るのであるけれども、社會はこれに對して何等の賠償を爲さないのみならず、單に自由競争の犠牲者であると諦めて居る。没收論者は斯の如き残酷なる没收の事實を見て社會主義者の唱へる没收が必しも不合理でないといふことを主張して居る。然し社會主義者の中には之に對して異見を有する者が少なくないことを附記して置く。

第二節 分配

レニンの政府が公にした憲法の中には「働かざれば食ふべからず」といふ一句があるが、これはバイブルの語を引用したのである。社會主義の原則として各人は何等かの労働を要求せられることになつて居る。故に労働能力を有する者は必ず精神労働若くは筋肉労働に従事することが必要であつて、何人も他人の生産したる物を何等の労働なくして消費することは出来ないのである。而して何等かの労働を爲せば如何なる人も其生活の保障を得ることが出来る。換言す

働かざれば食ふべからず

れば彼等は社會全體が生産したる所の物を分配するに當り其一部を得る事が出来るのである。然しこれを以て彼等の労働に對する報酬と考へるのは適當でない。何となれば社會主義の行はれる社會に於ては直接労働に従事しない所の人々も其分配を受けることが出来るからである。例せば幼年者、老年者、不具者及び育兒の任に當る所の婦人は何等生産事業に關係しないとしても尙分配に與ることが出来る。勿論彼等と雖も全く労働に無關係であるといふことは出来ぬかも知れぬ。幼年者は將來に於て重要な労働を爲すことが出来る。老年者は過去に於て生産のために大なる貢獻を爲したのである。育兒の任に當つて居る婦人は普通の生産事業よりも一層重要な職務に従事して居ると言ふことも出来る。只不具者のみは殆ど全く生産に無關係であるが如く思はれる。然し社會はこれ等の不幸者が労働しないと云ふ理由の下に彼等をして貧乏なる生活を爲さしむるといふ譯にはゆかぬ。社會主義の立場から言へば如何なる人も人間として生きる権利を有して居るのであるから、彼が労働を爲すと否とに拘らず、社會は彼等の生活を保障する義務がある。換言すれば労働を爲し得る人々は必ず何等かの労働を爲すべき義務があるけれども、直接労働に従事することの出来ない状態にある者は必しも労働を爲す必要はない。然も彼等は労働に従事する人々と同様に分配に與ることが出来るのである。故に社會主義の立場から見れば人々の受くる分配は必しも彼等の労働に對する報酬と見る事は出来ない。寧ろこれは各人が人間として受くべき権利を有して居る所のものと見るのが適當であらう。さ

れば人類は一方に於て生活すべき権利を有すると共に、勞働力を有する所の者は何人と雖も何等かの勞働に従事せねばならぬ義務を有して居る。

現社會に於て行はれて居る分配法に二種の區別がある。第一は勞働能率を標準として生産物を分配するのであつて、これは現社會に於て廣く行はれて居る。若し勞働能率によりて精密に其報酬を計算することが可能であるならば、これは確に最も公平なる方法であると言はねばならぬ。然し現在の社會に於て行はれつゝある所のものを見れば何人も其間に多くの不公平が行はれつゝあることを發見するに相違はない。若し實力に應じて報酬が決せられるならば何人もこれに賛成するに相違はないけれども、多くの事實は決して然らざることを證明して居る。大なる資産を有し若くは重要な位地を占めて居る人々の子孫は其縁故によりて彼等に不相應なる位地を占め或は報酬を得て居る。換言すれば財産及び位地は必しも其實力と並行しないのである。これがため資本家の雇人となつて働く人の中には少なからぬ不平があるけれども彼等はこれを如何ともすることが出来ないから、只雇主に對して服従するより外ないのである。然し社會主義の下に於ては決して此不平を抑壓することが出来ない。現在の經濟組織に於ては雇主に對して不満なる者は去つて他の雇主に行くことが出来るけれども、社會主義の下に於ては國家といふ唯一の雇主があるのみだから、如何に不平があつても他の雇主に行くことは出来ない。斯る状態の下に於て各人の勞働能率により其報酬を決定するといふことは殆ど不可能である。

筋肉勞働に關して能率の多少を計算することは比較的容易であるとしても精神勞働の能率は如何なる標準によつて決定せられるのであるか。例せば甲の辯護士と乙の辯護士との優劣は如何にしてこれを定むることが出来るか。甲の教育家と乙の教育家とを比較するに當りても同様の困難がある。よし其の判定が可能であるとしても其の當事者は果してこれに満足するであらうか。資本家制度の下に於て不平を唱へる場合には雇主が斷然其不平家を解雇する事が出来るけれども、社會主義の行はれる社會に於ては資本家の如き権力者が無いのであるから、政府は如何にしてこれ等の不平家を取締ることが出来るであらうか。斯く考へ来れば社會主義の下に上記の如き報酬法を實行することは絶對的に不可能であると言はねばならぬ。然らば私共は第二の分配法を採用するより外ないのであらうか。即ち各人は其能力に應じて勞働し、各人は其必要に應じて生産物を消費するといふ共產主義の原則を採用するであらうか。言ふ迄もなく共產主義は世界各國を通じて家庭といふ範圍内に於ては完全に行はれて居る。私共の家庭に於ては決して勞働能率を標準として一家の収入を分配するが如きことはない。如何なる場合に於ても勞働能力に應じて勞働し、其生産物即ち収入は家族員の必要に應じて消費することになつて居る。若し斯の如き共產主義が社會全體に於ても行はれるならば、これは儘に理想的であると信ずる。然し共產主義の實行には大なる道徳力を要することを記憶せねばならぬ。私共の家庭に於ては夫婦の間にも親子の間にも熱烈なる愛情が存在して居るのだから、共產主義の原則も容

易に實行することが出来るけれども、社會全體に於て斯の如き熱烈なる愛情の發露を期待することは餘りに無理な注文ではないかと思ふ。勿論私共の理想は家庭に於ける共產主義の原則を社會全體に及ぼすにあるけれども、此理想を實現する前に私共は先づ平等分配法を實行するのが適當ではないかと思ふ。社會主義者の間には分配法に關して異なる意見を有する者があるけれども、平等分配は比較的容易に實行し得べき分配法であると信ずる。

不平等なるものを平等に取扱ふのはこれに優る不公平はないと説く所の人がある。平等分配説は如何なる勞働に従事する所の人にも同一の分配を爲さんことを主張するのであるから、これは却つて大なる不平等ではないかと反對する所の人も少なくない。然し私が前に説明した如く社會主義者は分配を以て人々の勞働に對する報酬とは考へて居ない。若し人々が權利として分配を要求するものと考へることが出来るならば、社會は當然勞働者としての人ではなく、人としての人に對して分配すべき筈である。然らば老幼男女の區別なく總ての人に對して同一の分配を爲すことは必しも不公平でないといふことを了解することが出来る。更に他の一面を考へれば私共は平等分配法が決して不公平でないことを一層明瞭に知ることが出来る。今其理由を説明して見よう。私共が社會主義の下に於て生産する所のものは其一部だけが各人に分配されるのであつて、分配することの出来ぬ共有財産が決して少なくないことを記憶しなければならぬ。假に一年間に各人が受ける所の分配額を千圓とすれば、分配することの出来ぬ生産物で

平等分配
は不公平
にあらす

あつて、尙私共が隨意に消費し得る所のものが少なくとも千圓位の金額に達するのであらうと考へられる。これ等の共有財産は殆ど全部無料にて使用することが出来るのであるから、これを金銭にて計算することは困難であるけれども、前に述べたるが如く比較的大なる金額に達するといふことは何人も考へ得る所のことである。共有財産の使用が悉く無料であるか否かは容易に斷言することは出来ないけれども、社會の進歩と共に無料使用の範圍が漸次擴張せられることは疑なきことである。例せば水道、瓦斯及び電燈の如きものを無料にて使用せしむることは餘りに大膽過ぎるやうに思はれるけれども、一々これ等の使用に對して使用料を徴收することは全く勞力の浪費であると言はねばならぬ。若し人々の公德心が發達し、これ等の使用に充分なる注意を拂ひ、一切浪費を避けること、したならば、これ等の使用を一切人々の自由に任せるといふことは最も望ましきことではないかと思ふ。次に論すべきことは鐵道、電車、自動車等の運輸機關であるが、これ等に對しても當然無料使用を許すべきであると信ずる。これがため乗客の或程度迄増加することは豫想しなければならぬのであるが、汽車の如きは或人の想像するが如く決して乗客の激増を來すこととはあるまいと思ふ。今日の如く多數の人々が汽車を利用するのは私有財産制度の結果であると思ふ。私有財産制度の下に於ては個人的商業取引が盛に行はれる。而して最も多く汽車を利用する者はこれ等の商人及び工業家である。若し社會主義の主張するが如く國家が總ての生産を行ひ且つこれを人々に販賣するといふこと

になれば商業取引の如きは全部廢止されるやうになる。且つ社會主義の下に於ては勞働能力を有する者は悉く勞働に従事するのであるから、所謂遊民なる者は殆ど全減すること、なる。従つて旅行者の數は著しく減するのである。斯の如きことを考ふれば運輸機關の利用者から一々使用料を徴収するが如きは愚の至りである。更に進んで學校及び病院のことを考ふれば私共は此處にも無料使用の實例を見ることが出来る。現社會に於てすら小學校は無月謝制度の下に經營されて居る。社會主義の下に於て中學及び大學が同じく無月謝制度を採用するやうになることは當然のことであると言はねばならぬ。病院は決して疾病者のために濫用される虞はないのであるからこれを無料とすることは言ふ迄もない。其他博物館、美術館、實驗室、音樂堂及び劇場の如きは人々に無料使用を許すべき性質のものであるから、これを人々に公開することは同じく社會主義の主張する所である。以上述べたる如く社會主義の下に於て私共が無料使用の出来る共有財産の範圍は頗る廣い。私共が平等の分配を受くるといふことは或點から見れば幾分か不公平であるけれども、一度共有財産といふ範圍内に入り來れば私共は各自の能力に應じて充分にこれを利用することが出来る。藝術の趣味を解しない人は美術館や音樂堂を利用することは出来ない。科學の素養なき人に對しては實驗室は何等の價值を有しない。病人は病院を利用するけれども健康なる人は休暇に際して汽車を利用することが出来る。換言すれば共有財産の範圍内に於ては共產主義の理想が完全に行はれることになる。ゆゑに論者の言ふが如く平等

分配法は不公平であるにしても其範圍は人類生活の一部に限られて居る。共有財産の領分に於ては人々各其能力に應じて何物をも自由に使用することが出来るといふ便宜を有して居る。人類生活の理想は個人的に貧しく社會的に富むといふ點にある。即ち家庭に於ける私共の生活は極めて質素であるに反し、一度家庭を出づれば私共の利用し得べきものは悉く善美を盡して居るのである。若しこれが社會主義の理想であるとすれば人々の受くる収入は僅に私共の衣食を給するに足るだけであつて、共有財産から得る所の利益は殆ど無制限であるといつてもよい。されば分配の一小部分が平等であるとしても、これを仰々しく不公平など、非難するのは針小棒大の誹を免れないのである。

各人の収入が平等であれば何人も其職業に忠實ならんとする動機を失ふことになりはせぬかと氣遣ふ所の人が少なくない。何人も好んで勞働を爲す者はないのであるが故に、若し職業に勤勉であり、若くは怠惰であつても同一の分配を受けることが出来るならば、人々は自然に其職務を怠るやうになるといふことが一般に考へられて居る。然し社會主義者は社會主義の下に於て斯の如き弊害が決して生ずる虞はないと主張するのである。現社會に於て人々が一般に勞働を好まないのは疑ふことの出来ぬ事實であるけれども、私共はこれに關して二の理由があることを考へなければならぬ。第一の理由は現在の勞働時間が餘りに長いといふことであつて、第二の理由は勞働を賤めるといふことである。然るに社會主義は勞働時間の短縮を主張し且つ

勞働の動機

各人に労働を要求することにより労働を賤める風を一掃するのであるから、社會主義の實行を見るやうになれば人々の労働に對する態度は必ず一變するに相違ない。人類は決して天性怠惰を好むものではない。何等の仕事もなくして怠惰なる生活を送ることは一種の苦痛である。故に労働時間が短くなり、人々がこれを尊重するやうになれば何人もこれを苦痛と感ずる筈がない。社會主義は殊に職業の選擇に就き全く自由主義を取るのだから何人も自ら好む所の職業に従事することが出来る。概して言へば何人も自ら好む所の事を爲し、而も其れが全く強制的でない場合には殆ど何等の苦痛を感ずるものでない。よし長時間これに従事し、其結果疲勞を感ずることがあつても彼は尙これによりて充分なる満足を得ることが出来る。例せば遊獵を道樂とする所の人が終日山野を跋渉して何等の苦痛をも感ぜざるが如きである。更に教育の進むに従ひ人々は如何なる事からも多少學ぶことが出来るやうになるから、労働に従事して主に筋肉を働かせて居る間にも何等かの經驗を得るやうになる。従つて其職業に對し何人も興味を感ずるやうになる。殊に義務の觀念が發達するやうになれば、社會全體の利益を謀るためには何人も職業のために出来るだけ勉勵すること、なるに相違ない。然し人々が社會主義の經濟組織に慣れる迄は種々なる缺陷があることを覺悟しなければならぬから、若し人々が多少職業を怠るが如き傾向があるならば、彼等に對して何等かの獎勵法を設くる事も得策であると思ふ。例せば人々の熟練及び勤勉を標準として同一事業に従事する所の人々を甲乙丙とか一等二等三等

労働時間の短縮

とかに區別する事である。此等の區別は少しも報酬に影響を及ぼすものでないから人々の不平を起す憂がないと同時に多少人々を獎勵する所的手段となる事は疑なきことである。社會主義の行はれる社會に於ては如何なる人も労働能力を有する限り必ず労働せねばならぬのであるから、總ての労働は人間の重要な義務と考へられ、怠惰なる者は社會に對して不忠實なる者と考へられる様になるから、現在の如く労働を賤しむといふ風は全く一掃せられる様になる。今日の労働者は労働時間といふ鐵鎖に繋がれて居るのである。彼等のために労働時間の短縮は自由解放を意味する。分勞制度の發達により労働者は益機械化されるやうになつたけれども、若し労働時間を短縮することが出来るならば彼等は尙其餘れる時間を以て文化的生活を送ることが出来る。然らば労働時間の短縮は労働者のためにあらゆる問題を解決するものといふべきである。私が既に述べたるが如く若し労働時間を三四時間に短縮することが可能であるならば總ての青年男女に中學及び大學教育を授くることも決して困難ではない。而して近代に於ける科學の發達から見れば労働時間の短縮は容易に行はれ得べきことである。若し私共の經濟組織を改造し、精巧なる機械を使用して大規模の生産を行ふことが出来るとすれば、労働時間を三四時間位に短縮することは決して困難なることでない。四五十年の昔に於て歐米の諸國は十三四時間の労働を以て普通として居つた。英國が法律を以て十時間制度を規定した場合にも資本家はこれに對して猛烈なる反對運動を試みた位である。然るに今日に於ては八時間労働といふ

ことが世界の輿論となつて居る。英國のリバーホルムといふ實業家は六時間労働の實行し得べきことを公にして居る。クロボトキンはその著書に於て五時間労働の可能なることを主張して居る。パロノスキーが其著書『近世社會主義』に引用したる所に據れば獨逸の某教授は左の如く言うて居る。『若し充分に生産事業に科學を應用したならば現在獨逸國に於ける農夫の數を六割減じても尙其生産額を二倍にすることが出来る。若し總ての産業に就て言へば科學の應用は收入を二倍にし労働時間を半減することになるであらう。これ等の意見に據りて見るも時間の短縮は決して不可能でないことを知ることが出来る。果して然らば社會主義の實行により人々が労働に對する刺戟を失ふといふが如き意見は全く一の杞憂に過ぎないのではないかと思はれる。』

第三節 職業の選擇

職業には困難なるものと容易なるものがあり、清潔なるものと不潔なるものがあり、衛生的なるものと然らざるものがある。單に職業其自身に就て種々なる相違があるばかりでなく、職業を行ふ場所にも少からぬ相違がある。都會に於て工業を營む者と農村に於て農業に従事する者との間には大なる相違がある。殊に都會及び村落を離れたる山中に於て鑛業に従事するが如きは最も不便なる位地にある者と言はねばならぬ。若し社會主義の説くが如く何人も自由により其職業を選擇することが出来るとしたならば、何人が好んで困難なる、不潔なる、不衛生

職業の難

なる、不便利なる職業を選擇するであらうか。勿論文明の進歩は隨に各事業の間に於ける相違を或程度迄少なくすることが出来る。例せば糞尿の運搬及び泥溝浚への如き不潔なる職業は今日でも文明國に於てこれを見ることは出来ない。雪の日に人車を引くが如きことは極めて困難なる職業であるけれども、社會の富が増進すれば私共日本人も人車を全廢して自動車を使用することが出来る。電車の運轉手は長時間寒風に曝されて其職業に従事して居るけれども、彼の勤務を容易ならしむる如き設備をなすのは少しも困難なる事ではない。其他あらゆる困難事業に對して精巧なる機械を利用することは將來に於て私共が大に努力せねばならぬ所のことである。殊に都市生活と農村生活との間に今日の如く大なる相違を許して居ることは全く文明人の不注意に原因するものと言はねばならぬ。今日の文明は單に都會にのみ其恩恵を及ぼして居るのであるが、一視同仁といふ立場から言へば都鄙の生活をして互に接近せしむることは私共が爲さねばならぬ事であると思ふ。私は今日の如き大都會の出現が全く資本家制度の結果であると信じて居るのであるが、若し現時の經濟組織を改造さへすれば今日の都會は何れも人口十萬以下の小都會に變ずるであらうと思ふ。一方に於て運輸機關が充分に發達し、且つ人々が無料にてこれを使用することが出来るやうになれば、農村生活を爲す所の人々も一二時間にして都會に行くことが出来る。而して小都會の數は今日よりも増加することになるから、農村に住居する人々は何れの都會にか容易に出入することが出来るやうになる。斯の如くして都會と農

村の生活は初めて接近するやうになるのである。以上述べたるが如く文明の進歩は隨に職業の相違を或程度迄減することが出来るのであるけれども、其相違を全く除去することは不可能のことであると言はねばならぬ。若し大工と左官との間に除くことの出来ぬ相違があるとすれば、人々は必ず比較的容易なる職業を選択するに相違ない。此不平均を除くためには職業によりて労働時間の伸縮を行ひ以て其調節を謀るのが最善の方法であるやうに思はれる。即ち必要以上に人々が集り来る所の職業に對しては労働時間を長くし、然らざるものに對してはこれを短くすることになれば、各職業に對して必要な人数を得ることが出来るに相違ない。政府は毎年各職業に對する希望者の數を精密に調査して居るのであるから、其統計表を基礎として各職業に對する労働時間の長短を決定することは必しも困難ではない。

如何に労働時間を短縮しても尙人々が好んで選擇しない所の職業があることを忘れてはならぬ。前に述べたる如く都會及び農村を離れたる山中に於て鑛物の採掘に従事するやうなことは何人も好まない所の職業である。或は臺灣の如き極暑の地に、或は樺太の如き極寒の地に住居して何等かの事業に従事することは何人も避けたいと思ふに相違はない。時としては或職業に於て臨時に労働者の不足を告げることがあるかも知れぬ。斯る場合に於て全然職業選擇の自由を許すことになれば其處に大なる不便が生ずるのであるから、これに對して何等かの方法を講ずることが必要となつて来る。有名なる社會主義小説の著者ベラミーは斯の如き必要に應ずる

豫備軍

ため人々の間に所謂豫備軍なるものを組織することを説いて居る。彼の言ふ所に據れば人々が滿二十一歳に達し大學教育を終つて將に労働に従事せんとする時彼等は最初の三年間に於て自ら職業を選択する権利がない。彼等は社會の命する所に従ひ如何なる職業にも従事しなければならぬ。斯して三年の勤務を終りたる後彼等は初めて自由に職業を選択することが出来るのである。故に最初の三年間に於ける彼等の職務は恰も豫備兵の如きもので上官の命する所によりて如何なる處にも活動しなければならぬのである。若し志願者が不足であれば彼等は臺灣にも樺太にも出動しなければならぬ。まして寂しき山中に於て鑛業に従事するが如きは彼等が當然爲すべき義務である。然し彼等が活動する所の場所は自然的に不便の地であるから、政府は彼等のためにあらゆる便宜を與へなければならぬ。彼等の労働時間を短縮するは勿論、彼等の生活を愉快ならしむるためには衣食住の供給及び娛樂機關の設備を完全ならしむる必要がある。

精神労働者には全然筋肉労働を免除すべきや否やに就き社會主義者の間には意見の一致が無いやうに思はれる。若し精神労働者といふ特別階級を設けること、すれば、彼等が大學に於ける學蹟を参考し、更に特別な試験を行つて彼等の適否を定めねばならぬ。若し適當と認められたる時は彼等は更に大学院若くは其他の方法により彼等が専門とする研究を繼續することが出来る。候補者の中其試験に失敗するが如きことがあつても彼等は決して今日に於けるが如き失望落膽を爲す必要はない。何となれば彼等の成敗は決して彼等の生活に關係がないからであ

精神労働者

る。且つ彼等は職務以外に多くの時間を有して居るのであるから、其間に自らの研究を繼續することが出来る。例せば音楽を以て自らの職業と爲し得ざる者も尙自由に餘暇を以て音楽の研究を爲すことが出来る。然し三四時間の筋肉労働を以て充分とする社會に於て殊に精神労働者の階級を作り彼等に筋肉労働を免除することが果して得策であるか私はこれを疑ふのである。精神労働者といふ特別階級を設けることになれば長き間に精神労働者と筋肉労働者との相違が明瞭となり、終に兩者の間に上下貴賤の差を生ずるやうになりはしないかといふことを懸念するのである。金力によりて貧富の懸隔が生ずるやうに才能によりて貴賤の相違が生ずるやうになれば社會主義の目的は全く破壊されるやうになる。人々が毎日三四時間の筋肉労働に従事すること、なれば、彼等は毎日少なくとも五六時間を精神的研究に費すことが出来るのであるから、十年乃至二十年を経過する中には立派なる學者となり藝術家となる事が出来る。彼等は隨意に自ら研究したる結果を社會に發表する機会をも與へられるのである。勿論多少の例外はあるけれども多數の人々は筋肉労働の餘暇に於て充分精神的方面に活動することが出来る。如何なる人も毎日三四時間身體のために或種の運動を爲すことは必要であるが故に藝術に没頭する所の人々も尙三四時間の筋肉労働に服することは彼等のためにも必要である。藝術家は住々隱遁的生活を送る癖があるけれども彼等のためにも創作物のためにも彼等が今一層多く社會と接近することは必要である。藝術家は感興が湧き來つた時に其創作に従事するのであるから毎

勤務年限

日時を定めて筋肉労働に従事することは其感興を削ぐ虞があると言ふ人がある。然しこれは單に習慣であつてこれを改むることは必しも困難でない。トルストイは毎日時を定めて農業に従事して居たけれども、同時に彼は毎日數時間を創作のために費したと言はれて居る。要するに一部の人々をして精神労働にのみ従事せしむることは社會全體のために面白からぬ影響を及ぼすことになるから、私共は寧ろこれに對して反對するのである。殊に私共の勤務年限が比較的短いものであるとすれば私共は筋肉労働の勤務を終りたる後に於て精神労働を主とすることが得策であると信ずる。故に私は勤務年限に關して少しく述べて見たい。

ペラミーは社會主義の下に於ける人々の勤務年限を二十一歳から四十五歳迄として居る。これは餘りに理想的であるかも知れないが、必しも空想とは思はれない。若し二十一歳から四十五歳の男女が一部の不具者及び育兒に従事する者を除くの外悉く筋肉労働に従事することが出来るとしたならば私共は慥にこれによりて衣食住の要求を十二分に満足することが出来ると信ずる。同時に勤務年限を終りたる四十五歳以上の人々が精神的方面の労働に従事することになつたならば、其の方面に於ける社會の要求も充分に満足されるであらう。私は四十五歳以上の人々に對して精神的労働を強制することは好まないものであるけれども、若し彼等が任意的に労働するならば社會のために最も喜ぶべきことである。若し有志者の勤務だけにては充分に社會の要求を満足せしむることが出来ない場合には一定の時間を限りて彼等に精神労働を強ゆる

ことも敢へて不都合ではないと思ふ。彼等が爲すべき精神労働の大體を示せば其當時の政治組織に必要な所の役員、各種の學校に必要な教師、其他藝術家、宗教家、醫師の如きである。勿論尙筋肉労働に従事しつゝ、ある所の人々も其餘暇を以て任意的に精神的方面の活動を爲すことを妨げないけれども、主として此方面の活動に當る者は四十五歳以上の人々である。若し筋肉労働に於て人数に不足を來すやうな場合があれば四十五歳以上の人々も有志者として臨時に筋肉労働の手傳を爲すべきは言ふ迄もなきことである。

第四節 交換制度

共產主義には分配といふことがない。既に述べたる如く共產主義は各人の力に應じて働き各人の需要に應じて消費するといふのであるから、各人が労働して得たる所の生産物は即ち彼等の共有財産であつてこれを分配することは爲さないのである。私共の家庭は共產主義の理想的に行はれて居る實例であつて、共產主義者の希望が私共の社會をして全く家族の如くならしめんとするにあることは言ふ迄もない。而して私共の家庭に於ては殆ど全く分配といふことがなく、各家族員の必要に應じて一家族の收入を使用するのであるから、極めて僅かなるものを除くの外は私有財産と稱すべきものがない。共產主義の下に於ては分配がなく又私有財産と稱すべきものがないのであるから、斯の如き社會に於て物品及び勤勞の交換をなす必要のないこと

共產主義
と交換制
度

は明なることである。若し人々の教育が進歩し、道德の觀念が著しく發達するやうになつたならば、私共は交換制度を設けることなしに私共の生活を營むことが出来るに相違ない。若しこれが實行されるやうになれば私共は交換制度から生ずる今日の如き多くの浪費を節約することが出来る。然し斯の如き理想社會に達することは容易のことでない。少なくとも斯の如き理想を實現する迄に私共は社會主義の行はれる社會を経過せねばならぬこと、考へる。而して社會主義は生産物の分配を許すのであるから、其結果交換をなす必要が生じて來る。此點に於て社會主義は共產主義と其趣を異にして居る。然し社會主義が共產主義に到る第一歩であることは何人もこれを認めねばなるまいと思ふ。

社會主義の行はれる社會に於て尙交換制度の存在すべきことは既に述べた通りであるが、社會主義の下に於ける交換制度が決して今日行はれて居るが如きものでないことは言ふ迄もない。社會主義が實現されるれば國家が自ら生産者となり同時に販賣者となるから、一切卸賣商小賣商といふが如き仲介者を要しないことになる。故に總ての賣買は政府が經營する所の賣店に於て行はれるのである。斯の如き賣店は人民の必要に應じて便宜なる處に設けられるが故に人民は短時間の中に此賣店に於て必需品を購買することが出来る。政府は又其生産したる所のものを直ちに賣店に送るやうにするのだから、卸賣商や仲買人は全く不必要となるのである。若し政府が生産物を成るべく最寄の賣店に送ることにするならばこれによりて莫大なる運賃を節

仲介者を
要せぬ社
會

約することになる。現在の如く個人が各其事業を經營することになれば其生産物を成るべく一國內に賣り廣めんとするのは當然のことである。彼等は各其販路の廣きことを誇つて居るのであるが、若しこれを社會全體の立場から見たならば如何に多くの運賃を浪費して居るかを知ることが出来る。若し總ての實業家が其生産物を全國に送り出すことになれば其處に驚くべき運賃の浪費が行はれることは何人も容易に見ることの出来る事實である。然し社會主義の下に於けるが如く、各地の生産物は其附近の賣店に送り、其地方の人々がこれを消費することになればこれによりて多くの運賃を節約することは容易である。勿論國內に於ても亦國外に於ても最も其地に適した物を生産することは經濟上大なる利益がある。人々が其の長所に従つて分勞を行ふが如く土地と土地との間にも地理的分業の行はれることは望まじきことであるに相違はない。然し地理的分勞を極端に實行すること、なれば、多くの物品は自ら遠方の地に送られるやうになる。其結果甚しく運賃の増加を來すことになるのだから、地理的分業も或程度に於てこれを制限する必要がある。社會主義は其生産物を直ちに附近の賣店に送ることを主張することにより地理的分業に對して少なからぬ制限を加へることになる。換言すれば社會主義の下に於ては各貨物に對する市場の範圍は大に縮少せられる傾向がある。殊に今日に於て遠國から珍しき物品を輸入するが如きは私共の必要なる要求から出でたものでなく、寧ろ奢侈心を満足せしむるといふことに原因して居るのであるから、此虛榮心さへ除去せらるれば外國貿易の如きも

貨幣制度

或程度迄多少の制限を見るやうになりはしないかと思はれる。

社會主義の下に於て尙今日の如き貨幣制度が行はれるものとは思はれない。政府が總ての生産を一手に行ふこと、なれば、政府は必ず統計表に現はれたる國民の需要を基礎として生産するが故に、需要と供給との間には完全なる調和が行はれるに相違ない。斯の如き社會に於て金銀を貨幣とする必要のないことは明かである。若し政府が生産額に等しき紙幣を發行しこれを人々に分配することにしたならば人々はこれを以て好む所の物品を購買することが出来る。要するに政府は其生産したる貨物を人々に分配するのであるが、物品其物を分配することは消費者に取りて不便利であるから、先づ彼等に紙幣の如き切符を分配し、これと交換に物品を賣渡すのである。斯の如く交換の媒介物は單に政府と個人との間に一回だけ使用されるのであるから、金銀でなくとも一の紙片にて充分である。既に述べたるが如く生産物には尙現在の如き値段即ち何圓何錢といふが如き名稱を附し、同時に切符にも同一の名稱を附するのであつて、生産物の總金額と切符の總金額とは同一であることを要する。斯の如くして交換の媒介物たる切符と生産物の値段との關係は常に不變であるから今日の如く物價の變動を來すが如きことはない。人々はこれ等の切符を平等に分配され、これを以て政府の賣店から彼等が要求する所の物品を購求するのであるが、若し次の年度に於て切符の分配を受くる前に前年度に受けたる切符を全部消費したる場合には如何なる手段によりて其缺乏を補ふことになるであらうか。斯る場

合に於て個人の間切符の貸借を許すことは敢て差支なきこと、思はれる。但し貸借によりて利子を授受するが如きことは當然これを禁止しなくてはならぬ。切符の發行は一年間の生産高を標準として居るが故に切符の通用期間を一年に制限することは適當である。若し其年度に於て自ら所有せる切符を全部使用しない人は其殘額を如何にすべきかと言へば、彼は當然自分のために之を貯蓄する事は出来ない。彼は常に貯蓄によりて利子を得ることが出来ないのみでなく、彼には貯蓄を爲すべき何等の理由がないのである。彼の生活は種々なる方面に於て充分に保障されて居るのだから、疾病や死亡のために貯蓄する必要はないのである。若し彼の所有する切符が幾分にも残ることがあるならば、其に對するだけの物品が賣店に於て残されて居る筈である。若し是等の物品が貯蓄する事の出来るものであらば國家は自ら之を貯蓄する事になる。社會主義の下に於ては社會的貯蓄は必要であるけれども個人的貯蓄は全く無意義である。前に述べたるが如く社會主義の下に於ても物品にはそれ／＼値段を附けなければならぬ。然し何を標準として其値段を定めるかと言へば主として労働時間の多少といふことに據らねばならぬ。兎に角社會主義の下に於ては労働が最も主なる要素であるから、これによりて値段を決定することは當然のことであると言はねばならぬ。然し現在の經濟組織に於けると同じく全く需要供給の關係を無視することは出来ない。若し人々の需要が多いのに拘らず充分に生産することの出来ぬ物品があるとすれば、労働時間の多少を論ぜず其價を引上げねばならぬ。若し社

物價

會の需要さへあれば社會主義は一々これを生産することを賛成するのであるかといふに必しも左様ではない。若し其物品が社會全體のために有害であるならば政府は其生産を禁ずるかも知れぬ。若し又多くの労働力を費しても尙人々の要求を満足せしむる程の生産を爲すことが出来ない場合には寧ろ其生産を廢止することが適當ではないかと思ふ。殊に其物品が奢侈品であるならば、其労働力を要することの多き點から見ても、單に一部の人のみがこれを獨占することが出来るといふ點から見ても、其生産を廢止することは得策であるやうに思はれる。

社會主義は如何なる點から見ても國際主義である。世界の労働者に團結せよと勸告したるカールマークスは社會主義が國際的になるにあらざれば充分に其目的を達することが出来ぬと信じて居た。爾來各國に於ける社會主義者は常に聯合して國際的大運動を試みんとしたのである。斯の如く彼等は世界各國をして社會主義の唱へる經濟組織を採用せしむることを希望して居るが故に、彼等の目的が達せられたる時には國際貿易は益發達し、地球上に於ける地理的分業は一段の進歩を見ること、なるに相違はない。然し國際貿易は如何なる方法に於て行はれるであらうか。私共は或時期に到達するまでは國際貿易の媒介物として金銀が使用せられるであらうと信ずる。然し今日の如く國際貿易が個人間に行はれる代りに國家と國家との間に行はれること、なれば其の形式は極めて簡單となるが故に金銀を用ゐずとも手形の如き信用機關を以てすることが出来るやうになるかも知れぬ。現在の國際貿易に於ては取引の大部分が個人と個人と

國際貿易

の間に行はれるのであるから、輸入と輸出の間に何等の調節がない。これがため國內に於ては常に物價の變動を來すといふ不便がある。勿論輸入にせよ輸出にせよ長き時期の間其超過の状態を繼續することは出来ないけれども、輸入超過から輸出超過となり再轉して輸入超過となる迄には經濟界は何時も或程度の不安を感じざるを得ない。然し輸入も輸出も國家が一手に引受けること、なれば輸入輸出の調節を謀ることは極めて容易である。殊に物々交換の原則を應川することになれば國家は自ら輸出高と同一額の物品を輸入することになる。且つ私が既に述べたる如く地理的分業を極端に行ふことは漸次制限せられるに相違ない。若し各國が自ら生産し得る物は出来るだけ之を生産することになれば各生産物に對する市場の範圍は著しく狭小となるに相違はない。従つて遠隔の地から多くの物品を輸入するといふ事も少なくなるに相違はない。勿論或程度迄私共の要求が増加することは望まじきことであるけれども、奢侈心或は虛榮心を満足せしむるために國際貿易を盛ならしめるといふことは私共の寧ろ反對する所である。

第五節 社會主義の政治組織と實行手段

現在の經濟組織を全然改造せんとして居るものは社會主義のみではない。無政府共產主義、サンディカリズム、組合社會主義の如きも亦改造を主張して居るのである。これ等の主義は共有財産主義の分派であると言ふのが適當であるかも知れぬ。即ち私有財産制度を廢して共有財産

制度を取ると言ふ點に於ては何れも一致して居るのであるが、これ等の分派が有して居る所の國家觀及び其主義を實現する所の實行手段に關する意見に於ては大に異なる所がある。社會主義は國家の手によりて私有財産を變じて共有財産たらしめ、且つあらゆる生産事業を行はしめんとするが故に當然國家の存立を是認するのみでなく、國家をして重要な位地に立たしめんとするのである。勿論社會主義が是認せんとする所の國家は充分にデモクラシーの精神を基礎として立つ所の者でなくてはならぬ。換言すれば社會主義的國家は民衆化されたる國家でなくてはならぬ。言ふ迄もなく社會主義者の國家觀も種々相違があるから、決して統一されたものではないけれども、今日迄の傾向を見れば社會主義は餘りに國家を重視して居るやうに思はれる。即ち社會主義者の立場から言へば生産事業は勿論分配及び交換に關する事業すら殆ど全部これを國家に委任せんとして居る。斯の如く經濟生活の全部を國家に經營せしめることは餘りに大なる負擔ではないかと思ふ。近頃組合社會主義なるものが起り、産業の經營は全部勞働組合に一任すべしといふ説を唱へるやうになつたのは在來の社會主義が主張したる中央集權主義に對する反動であるかとも考へられる。

完全なる自由を得んとするには今日の社會は餘りに多くの障害を有して居る。何れの國家も人民に對して幾多の制限を設けて居ることは私共が充分に了解し得る所のことである。勿論一部の人に對して嚴重なる法律の必要があることは何人もこれを認むるけれども多數の人に取

て斯の如き制裁のあることは望まじきことでない。無政府主義は斯の如き束縛から全く解放されることを主張するのであつて、今日の所謂國家なるものを否定するのである。國家には必ず法律があり、法律を勵行するためには裁判所、警察、軍隊といふが如き機關が設けられて居る。無政府主義は是等の機關あるがために人々は充分に自由を得ることが出来ないものであるから、これを全廢することを主張するのである。これと同じく共產主義は經濟方面に於けるあらゆる抑壓が資本主義から來るものであることを信ずるが故に一日も速かに現今の私有財産制度を全廢せんことを唱へるのである。即ち政治上に於ては國家を否認し經濟上に於ては資本制度を打破せんとするのが無政府共產主義の目的である。而して無政府共產主義の否認する所のものは單に國家及び資本制度のみではなくあらゆる干渉にも反對せんとするのである。例せば勞働時間制限の如き或は各種法律の干渉の如きである。これに據りて見れば無政府共產主義は極端なる個人主義であるといふことも出来る。然し無政府といふことは決して無秩序を意味するものではない。彼等の所謂無政府は警察權や兵力の伴ふ法律を否認するのみであつて、總ての規則をも無視せんとするものでないことは何人も了解しなければならぬ點である。如何なる團體にもこれを支配する所の規則がある。勞働階級が組織して居る所の勞働組合は言ふ迄もなく、消費組合、生産組合、信用組合の如きにも種々なる規則が設けられて居る。無政府共產主義は決して斯の如き規則をも廢止せんとするのではない。これ等の規則にはこれを強制するために

警察や軍隊がないのであるから、人々はこれ等の規則によりて何等抑壓せられることはないのである。現今の社會に於て法律が必要であり、且つこれを強制するために或程度迄警察や兵力の存在を要することは何人もこれを認めるけれども、若し無政府共產主義の理想が實現せられるといふ可能性があるならば何人もこれを歓迎するに相違はない。若し法律の力を借らずして人々が平和に社會的生活を營むことが出来るならばこれは人類に取りて最大幸福である。支那人も斯の如き社會を理想として居たのであつて、彼等の所謂華胥の國は即ち無政府共產主義の別名に過ぎないのである。

何故に多くの人々は無政府共產主義に對して少なからぬ恐怖を抱いて居るかといふにこれは全く人々の誤解に過ぎないのである。不幸にして露國の如き久しく專制政治の下に苦んで居た所に於て無政府共產主義が最も早く發達したのであるから、この主義を奉ずる所の人々は其目的を達するために暴力手段を用ゐるやうになつた。爾來無政府主義とさへいへば直ちに破壊暗殺等を聯想する様になり、今日に於てさへ尙多數の人々は無政府主義に對して惡感を抱いて居るけれども、無政府主義と暴力との間には何等必然的關係はないのである。トルストイの如きは純然たる無政府主義者であるに拘らず、彼はあらゆる暴力手段に對して絶對的に反對して居る。彼は基督教の教訓に従うてあらゆる暴力に反對して居るのであるが、彼は國家が最も多く暴力手段を用ゐるといふ點から主として國家を否認せんとするのである。斯の如く考へ來

無政府共
産主義に
對する誤
解

れば無政府主義が暴力手段と密接なる關係を有するが如く考へるのは全く人々の誤解であると言はねばならぬ。無政府主義は國家が警察及び兵力を援として法律を制定したることに反對して居る位であるから、若し自ら暴力を用ゐることを是認するならば、これは大なる矛盾であると言はねばならぬ。彼の平和主義を宣傳する所の基督教も我國維新の當時に於ては大なる疑の眼を以て見られて居た。何となれば天草の騒亂以來我國民は基督教に對して少なからぬ反感を有して居たからである。若し基督教が天草騒動の如きものと必然的關係を有するものとしたならばこれ實に大なる矛盾ではあるまいか。無政府共產主義の如きは一の理想であつて、其中には何等危険分子を含んで居ない。

國家を否認する點に於てサンディカリズムは無政府共產主義と同一である。サンディカリズムは資本家と労働者との間に於ける利害の衝突は到底調和することの出来ないものであることを説き、従つて労働階級は資本家に對して飽迄も闘争を試むべきことを奨励するのである。而して現在の國家は常に資本家擁護のために努力して居るのであるから、サンディカリズムは公然國家を否認するやうになつたのである。而して彼等は國家を廢止するためには如何なる暴力手段を用ゐるも差支へなきことを主張して居る。佛國に於けるサンディカリズムの首領ソレルの如きは必しも暴力手段には賛成しないのであるけれども、階級闘争の必要なることを説き且つこれを奨励して居る。サンディカリズムの最も盛であるのは佛國であるが、其團體が初めて起つた

サンディ
カリズム

のは一八九五年であつて、今や佛國に於ける労働者の約二分の一は此團體に屬して居る。米國に於けるサンディカリズムはI.W.W.といふ名稱を用ゐて居るのであるが、これはIndustrial Workers of the Worldの頭字を取つたもので、世界に於ける産業労働者といふことを意味するのである。一九〇三年コロラド州に於て西部坑夫同盟のストライキの起つた時初めて此名稱を用ゐるやうになつた。

組合社會
主義

組合社會主義は産業界の管理を全部労働組合の手に引受くべしといふ點に於てサンディカリズムと其意見を同うして居るけれども、其異なる所は國家を認めるといふ點にある。サンディカリズムは單に生産者の立場からのみ社會を觀察して居るけれども、組合社會主義は同時に消費者としての立場からも觀察するのである。故に組合社會主義は生産者として労働組合の存在を見ると共に消費者の代表者として國家を認めるのである。而して政府に必要な所の費用は一切労働組合の手から寄附するといふのである。若し労働組合と政府との間に一致の行動を爲すべき必要がある時には双方より委員を選挙して協議會を組織することになる。斯の如くして國家の重要な事件は協議會の議決を経て實行されるのである。何故に以上述べたるが如き組合社會主義が唱へられるやうになつたかといふに、多くの人々が社會主義に對して多少の不滿を感ずるやうになつたからである。社會主義の唱へる所に豫れば共有財産制度の下に於ては總ての事業が國家によりて經營せられることになるのであるから、國家それ自身が一大資本家とな

るといふ虞がある。斯の如くなれば所謂前門虎を防いで後門狼を入れるといふことになるのだから、労働者は再び資本制度のために壓迫されるやうになるかも知れぬ。これがため組合社會主義は産業全部を労働者の手にて管理し、教育、衛生、土木といふが如き事業のみを政府に一任せんことを主張する様になつた。若し此主張が實現されることになれば、労働組合と政府とは社會の権力を二分することになり、兩々相並んで社會生活を營むことが出来るやうになる。

私は改造を目的とする種々なる學說に就きて其大略を述べたのであるが、これ等の學說が實現される時に於て社會は果して如何なる組織を取るであらうか、これに關しても私は簡單に説明を試みたのである。社會主義及び組合社會主義は國家を認むるけれども、無政府共產主義及びサンディカリズムは全然現在の如く警察及び軍隊を後援とする所の法律を以て支配する國家を否認するのである。然しこれ等の學說は私有財産制度を廢して共有財産制度となすことに於て一致して居る。而して斯の如き社會的改造を實現するに如何なる手段を取るかといふに、私はこれを大別して二つとなすことが出来る。第一は議會政策であり、第二は直接行動である。議會政策とは議會に多數を占めて其主義を實行すべしといふのであるから、先づ第一に爲すべきことは主義の宣傳である。第二は選舉運動によりて多數の同志を議會に送ることである。獨逸の社會民主黨は創立以來此方針によりて進んで來たのであるが、未だ其目的を達することは出来ないのである。然し直接行動を方針として居る所のサンディカリズムも容易に其目的を達す

議會政策

ることが出来ないのであるから、何れの手段が最も有效であり、最も早く成功するかは今日に於て容易に判斷の出来ぬことである。議會政策は從來社會主義が取り來つた所の方針であるが如く考へられて居たけれども、これを以て社會主義獨得の手段であると考へるのは決して適當でない。社會主義者の中にも直接行動を主張する所の者がある。少なくとも適當なる時機が來れば直接行動の手段を取ることも已むを得ないと信じて居る者が少なくない。

直接行動

サンディカリズムは労働者の間に存在して居る最も激烈なる團體であつて、共有財産制度の實現を來すためには如何なる手段を取ることも辭しないのである。彼等が最も有效なる手段として考へて居るのは總同盟罷工であつて、彼等はこれがためにあらゆる準備を整へて居る。現在に於ても彼等は小規模のストライキを度々行つて居るのではあるが、其目的は出來得るだけ資本家を苦しめるといふことにある。彼等は小ストライキが決して彼等の目的を達するものとは考へて居ないけれども、これを以て將來に於ける大ストライキの準備行動と考へて居る。ストライキ及びサボターージュは資本家を苦しめることが少なくないから、これによりて資本家は單に自ら反省するのみでなく、終には其煩に堪えずして職業を廢止するやうになるかも知れぬ。これは勿論労働者の希望する所である。今やこれ等の労働者は其目的を達するために労働組合の組織變更を企て、居る。從來の労働組合は職業を基礎とする所の職工組合に過ぎなかつたのであるが、今や労働者は斯の如き分立的方法を捨て大なる旗幟の下に團結せねばならぬやうに

なつた。英國に於て百萬人以上の組合員を有する探炭夫組合八十萬人の組合員を有する鐵道従業員組合及び四十萬人の組合員を有する運輸業者組合の如きは實に此大勢に動かされて生じた所の團結である。英國の労働者が果して議會政策の代りに直接行動の手段を取るか否かは容易に判斷すべきことでないけれども、これ等の組合が近年に至り著しく總同盟罷工といふ武器を提げて彼等の要求を押し通さんとする傾向のあることを見れば、英國の産業界にも漸次新氣運の發達しつゝ、あることを見る事が出来る。

労働階級が合法的なる議會政策を捨て、漸次直接行動に傾かんとすることは社會全體のために憂ふべきことであるけれども、これ等労働者が斯の如き方針を取るに至つたのには相當の理由があることを記憶せねばならぬ。私は今サンディカリズムが議會政策に對して如何なる考を有して居るか其大略を述べて見たいと思ふ。今日迄労働階級は幾度も其代表者を議會に送り、時としては彼等の代表者が内閣員となつたこともあつた。然し彼等の代表者が政治界に入るや否や彼等は労働階級の利害問題のみでなく、他の問題にも心を用ゐねばならぬやうになつた。換言すれば彼等の多くは所謂政治家氣質を有するやうになり、専心一意労働階級の利益を謀ることが出来なくなる。殊に内閣の椅子を占める者は全く去勢されたるが如く労働問題に對する熱心を失ふことになる。斯の如き實例は最も多く佛國に於て、或程度迄は英國に於ても見る事が出来るのである。更に労働階級の方面を見れば労働運動のために彼等の投票を得るといふこ

議會政策の否認

とが案外に困難である。普通選舉法の下に於ては如何なる労働者も丁年に達しさえすれば投票權を有して居る筈であるけれども、雇職業のために其居住地を變更する必要がある者は選舉法によりて選舉することの出来ぬ場合が多い。これがため改造運動のために労働者全部の投票を集めることが極めて困難である。これ等の事情があるがために彼等は政治運動が全く無効であることを實驗し、終に直接行動といふ手段を取るやうになつた。而して彼等が其目的を達するために暴力を用ゐることを躊躇しないやうになつたのは又相當の理由がある。暴力を用ゐるのは決して彼等労働者のみではなく資本家も亦大膽にこれを用ゐるのである。この點に於て労働者は寧ろ資本家に學んだのであると言ふことも出来る。有産階級は常に國家の保護を受けて居るから、若し労働階級が彼等に反抗するが如きことあれば資本家は直ちに法律の助を受け、必要あれば警察及び軍隊の力を借ることも出来る。ストライキの場合に労働階級が常に警察及び軍隊のために暴力的壓迫を加へられることは歐米諸國に於て見る事の出来る事實である。サボターチユの如きも労働者は之を資本家から學んだのであると言つて居る。多くの工業家が粗悪なる貨物を生産して消費者を欺くが如きは即ち消費者に對する一種のサボターチユである。労働者が資本家に對してサボターチユを行ふのは消費者としての復讐に過ぎぬと彼等は言つて居る。

以上述べたる二つの手段の中何れを取るべきかと言ふことは私が此處に論ぜんとする問題で

はない。社會全體の立場から見ても或は労働階級の立場から見ても合法的手段を取ることには最も得策であるに相違ないけれども、國家及び資本家が労働階級に對して取る所の態度如何によりては今日の労働運動が終に危険性を帯びる様になるかも知れぬ。若し労働運動を善導せんと欲するならば先づ人々に世界に於ける労働運動の大勢を知らしむることが必要である。殊に労働階級に對して種々なる教育機關を設けることは國家が充分に負すべきことであると信ずる。若し我國の労働者が英國の労働者の如く充分なる教育と訓練とを受けることが出来るならば彼等は決して輕率盲動に出づる憂はあるまいと思ふ。私は以上各方面から社會問題殊に労働問題を研究したのであるが、歸着する所は結局教育問題である。若し我國が労働者の教育に成功することが出来るならば私共はあらゆる社會の疾病を根治することか出来るのみならず、極めて平和的に社會改造の一大事業をも成就することか出来るかと確信するのである。

社會問題概論 終

大正十三年四月二十日版
 大正十二年六月二十日版
 大正十一年七月二十日版
 大正十年八月二十日版
 大正九年三月廿五日版
 大正八年三月廿五日版
 大正七年三月廿五日版
 大正六年三月廿五日版
 大正五年三月廿五日版
 大正四年三月廿五日版
 大正三年三月廿五日版
 大正二年三月廿五日版
 大正一年三月廿五日版

昭和二年三月廿五日版
昭和三年六月一日七版

定價金四圓



著者 安部 磯

發行者 種村 宗八

印刷者 竹内 喜太郎

發行所

東京市牛込區早稲田

早稲田大學出版部

振替口座 東京一三二五番
 名古屋二三四番
 大阪六八九〇番

(刷印社會式株刷印清日)

早稻田大學教授 煙山專太郎著

西洋最近世史

菊判 一千頁
定價 十六圓
郵稅 十八錢

眞摯不
屈十年
間の一
大名著

本書は最近西洋社會のあらゆる方面の活動を「一般史」の立場に據つて因果的、系統的に精叙したもの、かの事實の列擧を主とするが如き從來の歴史とは根本的に趣を異にしてゐる。史料の正確、識見の透徹吾人は本書に依つて初めて最近西洋社會の眞相を掴むことが出来る。現代知識階級の要求にびつたり適合した活歴史である。

早稻田大學出版部

東京 牛車水 東名
一丁目 一三二番 振替
二丁目 一三二番 古
三丁目 一三二番 屋
四丁目 一三二番
五丁目 一三二番

早稲田大學教授 杉森孝次郎著

國家の明日と 新政治原則

四六判美裝
五百五十頁
定價參圓
郵稅十二錢

著者の自序の一節に曰く「社會國家への主張！ 現代人に取ての最深、最高、最善、そして最直接の綜合的理想主義の具體的内容は、まさしくここにその一大完全形を構成する。社會國家へ!! これを英譯すれば Toward a socialized state ともなるが、この五文字こそは、二十世紀の四分の第一期末に立つて、その第二期以後の社會と人生とを創作する自由と責任とを十分に覺識し、實現すべき位置にある現代人が、すべからず體讀するを要する時務語だ。北米合衆國は、曾つて、自から、社會國家へ!!! に代表される」と。五篇三十六章を貫聯して、知力に於いて最も獨創的であり、動機に於て最も奉仕的である一魂が、現代を環境として組織的、系統的に作用し、發現してゐる。

早稲田大學出版部

東京東區
牛車水
三軒
九八六
〇〇

34. 8. 11

